

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5325810号
(P5325810)

(45) 発行日 平成25年10月23日 (2013. 10. 23)

(24) 登録日 平成25年7月26日 (2013. 7. 26)

(51) Int. Cl. F I
E O 6 B 1/56 (2006. 01) E O 6 B 1/56 A

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2010-32759 (P2010-32759)	(73) 特許権者	390005267
(22) 出願日	平成22年2月17日 (2010. 2. 17)		Y K K A P 株式会社
(65) 公開番号	特開2011-169004 (P2011-169004A)		東京都千代田区神田和泉町 1 番地
(43) 公開日	平成23年9月1日 (2011. 9. 1)	(74) 代理人	110000176
審査請求日	平成24年3月21日 (2012. 3. 21)		一色国際特許業務法人
		(72) 発明者	荒川 哲也
			東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
			A P 株式会社内
		(72) 発明者	平田 奈穂
			東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
			A P 株式会社内
		審査官	深田 高義

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 改装サッシ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラスが取り外されて開口を形成し前記ガラスが係合されていたガラス係合部より前記開口の外方側に当該ガラス係合部より室外側に突出する突出部を有する既設サッシの既設枠に取り付けられる改装枠を有する改装サッシであって、

前記改装枠は、前記ガラス係合部と対向して前記既設枠に取り付けられる取付部を有し、

前記取付部は、

前記既設枠に取り付けられる前記取付部の縁が、前記突出部より外方側に配置される場合には、前記ガラス係合部との間に、当該取付部と前記ガラス係合部とに当接される当接部材を介して前記ガラス係合部に固定され、

前記取付部の前記縁が、前記突出部より前記開口の中央側に配置される場合には、前記ガラス係合部に直接に固定されることを特徴とする改装サッシ。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の改装サッシであって、

前記既設サッシは、F I X 窓用のサッシであり、

前記ガラス係合部は、前記ガラスが保持されていたガラス保持部であることを特徴とする改装サッシ。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の改装サッシであって、

10

20

前記既設サッシは、前記ガラスがルーバーをなすガラスルーバー窓用のサッシであり、
前記ガラス係合部は、前記ガラスルーバー窓を閉めた状態にて、前記ルーバーをなす前記ガラスと対向するガラス対向部であることを特徴とする改装サッシ。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の改装サッシであって、
前記取付部は、前記改装サッシの縦枠に設けられており、
前記取付部の見付け方向の幅は、前記ガラス係合部の見付け方向の幅より広いことを特徴とする改装サッシ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、既設サッシの既設枠に取り付ける改装サッシに関する。

【背景技術】

【0002】

建物の開口部に設けられた既設サッシの中には、開閉不能にガラスが嵌め込まれた F I X 窓用のサッシがある（例えば、特許文献 1 参照）。また、短冊状に形成されたガラスがルーバーをなすガラスルーバー窓用のサッシも知られている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

20

【特許文献 1】特開 2 0 0 9 - 2 8 7 3 1 1 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記のような既設の F I X 窓を開閉可能な窓への改装を、また、既設のガラスルーバー窓をルーバーのない開放的な窓への改装を、希望される場合がある。F I X 窓やガラスルーバー窓は比較的間口が狭い開口に設けられている場合が多いため、できるだけ開口部の幅を広く確保することが望まれたり、または、屋外側への突出量を小さくすることが望まれる等、施工現場により要求が相違する。しかしながら、施工現場に合わせた専用の改装サッシを用いることは管理が煩雑であるとともにコストが高くなるという課題がある。

30

【0005】

本発明は、かかる課題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、汎用性が高い改装サッシを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

かかる目的を達成するために本発明の改装サッシは、ガラスが取り外されて開口を形成し前記ガラスが係合されていたガラス係合部より前記開口の外方側に当該ガラス係合部より室外側に突出する突出部を有する既設サッシの既設枠に取り付けられる改装枠を有する改装サッシであって、前記改装枠は、前記ガラス係合部と対向して前記既設枠に取り付けられる取付部を有し、前記取付部は、前記既設枠に取り付けられる前記取付部の縁が、前記突出部より外方側に配置される場合には、前記ガラス係合部との間に、当該取付部と前記ガラス係合部とに当接される当接部材を介して前記ガラス係合部に固定され、前記取付部の前記縁が、前記突出部より前記開口の中央側に配置される場合には、前記ガラス係合部に直接に固定されることを特徴とする改装サッシ。

40

【0007】

このような改装サッシによれば、改装枠の取付部の縁が突出部より外方側に配置されて取り付けられる場合は、取付部が突出部より屋外側に位置するので、屋外側から見た際には突出部を取付部にて覆って既設枠の露出を小さく抑えることが可能である。また、取付部の縁が突出部より外方側に配置される場合には、改装枠がより開口の外方側に配置することができるので、改装枠にて形成される新たな開口の見付け方向の幅をより大きく確保

50

することが可能である。このとき、取付部とガラス係合部とが見込み方向に間隔を隔てて配置されるが、取付部とガラス係合部との間には、取付部とガラス係合部とに当接される当接部材が介在されるので、安定した状態にて改装枠を既設枠に取り付けることが可能である。

【 0 0 0 8 】

また、改装枠の取付部の縁が、突出部より開口の中央側に配置される場合には、ガラス係合部に直接に固定されるので、改装枠の室外側への突出量を小さく抑えることが可能である。すなわち、開口を大きく確保したい現場や室外側への突出量を抑えたい現場などいずれの現場にも用いることが可能な汎用性の高い改装サッシを提供することが可能である。

10

【 0 0 0 9 】

かかる改装サッシであって、前記既設サッシは、F I X窓用のサッシであり、前記ガラス係合部は、前記ガラスが保持されていたガラス保持部であることが望ましい。

このような改装サッシによれば、改装枠が取り付けられるガラス係合部は、F I X窓用のサッシのガラス保持部であり高い強度を有するので、ガラス保持部に改装枠を強固に取り付けることが可能である。

【 0 0 1 0 】

かかる改装サッシであって、前記既設サッシは、前記ガラスがルーバーをなすガラスルーバー窓用のサッシであり、前記ガラス係合部は、前記ガラスルーバー窓を閉めた状態にて、前記ルーバーをなす前記ガラスと対向するガラス対向部であることとしてもよい。

20

このような改装サッシによれば、改装枠が取り付けられるガラス係合部として、ガラスルーバー窓用のサッシのガラス対向部を用いることにより、ガラスルーバー窓用のサッシにも取り付けることが可能な改装サッシを提供することが可能である。

【 0 0 1 1 】

かかる改装サッシであって、前記取付部は、前記改装サッシの縦枠に設けられており、前記取付部の見付け方向の幅は、前記ガラス係合部の見付け方向の幅より広いことが望ましい。

このような改装サッシによれば、改装サッシの縦枠に設けられた取付部の見付け方向の幅が、ガラス係合部の見付け方向の幅より広いので、改装枠を取り付けることにより、既設枠が露出する量をより小さく抑えることが可能である。

30

【 発明の効果 】

【 0 0 1 2 】

本発明によれば、汎用性が高い改装サッシを提供することが可能である。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 3 】

【 図 1 】 本実施形態に係る改装サッシを説明するための水平断面図である。

【 図 2 】 本実施形態に係る改装サッシの改装枠が既設枠に取り付けられた状態の一例を示す水平断面図である。

【 図 3 】 本実施形態に係る改装サッシを室外側への突出量を小さくして取り付けられた状態を示す水平断面図である。

40

【 図 4 】 本実施形態に係る改装サッシをガラスルーバー窓の既設枠に取り付けられた状態を示す水平断面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 4 】

以下、本発明の一実施形態に係る改装サッシについて図面を参照して説明する。

【 0 0 1 5 】

本実施形態の改装サッシ 1 は、例えば、建物の室内外の境界となる壁に設けられている F I X 窓用の既設サッシの既設枠 5 0 に固定される改装枠 5 と、改装枠 5 に開閉自在に設けられた障子 3 0 と、を有する縦出し窓用のサッシである。障子 3 0 は、上下の端がピンにて回動自在に支持されており、室内側に設けられたハンドル 3 2 を操作することによ

50

り、改装枠 5 が有する上枠（不図示）及び下枠（不図示）に沿ってピンがスライドしつつ障子 30 が回転して、開閉するように構成されている。

【0016】

以下の説明においては、建物等に取り付けられた状態の既設枠 50 及び改装サッシ 1 を屋内側から見たときに、左右となる方向を左右方向または見付け方向、屋内外方向である奥行き方向を見込み方向として示す。また、改装サッシユニットが備える各部材は、単体の状態であっても既設枠 50 に取り付けられた状態で見付け方向、見込み方向等となる方向にて方向を特定して説明する。

【0017】

また、本実施形態においては、建物に既に設けられている既存の既設枠 50 と、既設枠 50 を覆うように改装される改装サッシ 1 とが登場するが、同じ名称を有する部位、部材には、各名称の前に「既設」または「改装」を付して説明する。例えば、既設枠が有する縦枠等は既設縦枠等とし、改装サッシ 1 が有する縦枠や障子等は、改装縦枠、改装障子等として説明する。

【0018】

図 1 は、本実施形態に係る改装サッシを説明するための水平断面図である。図 2 は、本実施形態に係る改装サッシの改装枠が既設枠に取り付けられた状態の一例を示す水平断面図である。図 2 では、室内側から見て既設枠 50 の右側の既設縦枠 51 に、改装枠 5 の右側の改装縦枠 10 が取り付けられている。以下の説明では、右側の既設縦枠 51 に取り付けられた右側の改装縦枠 10 を例に挙げて説明するが、左側の既設縦枠 55 に取り付けられた左側の改装縦枠 35 も、右側の改装縦枠 10 と左右が反転するだけで他は同じである。

【0019】

図 1 に示すように、既設サッシの既設枠 50 は、FIX 窓用である既設サッシのガラス（不図示）が取り外されて、ガラスにて覆われていた部分が開放されて矩形状の開口 3 をなしている。

【0020】

図 2 に示すように、ガラスが取り外された既設縦枠 51 はガラスを保持していたガラス係合部としてのガラス保持部 51a と、ガラス保持部 51a より開口 3 の外方側、すなわち、既設縦枠 51 のガラス保持部 51a より室外側に突出する突出部 51b と、突出部 51b と繋がって室内側に延出され開口 3 の中央側に臨む既設壁部 51c と、既設壁部 51c の室内側の端部にて既設額縁と対向する額縁対向部 51d と、見込み方向において額縁対向部 51d とガラス保持部 51a とのほぼ中央近傍から開口 3 の外方側に突出されて躯体 4 に固定される躯体固定部 51e とを有している。

【0021】

そして、既設縦枠 51 は、額縁対向部 51d の室内側の端部が既設額縁 7 と対向する状態で、固定金具 53 により既設額縁 7 に固定されるとともに、躯体固定部 51e が躯体 4 に固定されて取り付けられ、室外側に突出された突出部 51b が最も室外側に位置している。また、突出部 51b の先端には、水切りが設けられており、突出部 51b の先端より室内側に位置させてガラス保持部 51a が開口 3 の全周において開口 3 の中央側に向かって突出されている。

【0022】

右側の改装縦枠 10 は、開口の中央側に臨み、室内側に配置される室内側壁部 12 と室外側に配置される室外側壁部 13 とが断熱部材 24 を介して接合された改装壁部 11 と、室内側壁部 12 の室内側の端部であって改装額縁 8 に固定される額縁固定部 14 と、室内側壁部 12 の室外側の端部から開口 3 の中央側に突出され障子 30 の室内側の部位が当接されるシール材 25 が設けられた室内側障子当接部 15 と、室内側障子当接部 15 より室内側に間隔を隔てて開口の中央側に突出された嵌合片 16 と、室外側壁部 13 の室外側に開口の中央側に突出され障子 30 の室外側の部位が当接されるシール材 25 が設けられた室外側障子当接部 17 と、室外側壁部 13 から開口 3 の外方側に突出されて既設縦枠 51

に取り付けられる取付部 18 と、室外側壁部 13 の室外側の先端より僅かに室内側から外方に向かって突出された突片 19 と、を有している。

【0023】

室内側障子当接部 15 の室内側壁部 12 側の部位と嵌合片 16 とには、アタッチメント 21 が嵌合されており、左右の改装縦枠 10 に嵌合されたアタッチメント 21 間に網戸 22 が取付けられている。

【0024】

取付部 18 は、改装縦枠 10 を既設縦枠 51 に取り付けられたときにガラス保持部 51a と対向する部位を有する対向壁部 18a と、対向壁部 18a の外方側の先端から室外側に突出された外方縁壁部 18d と、外方縁壁部 18d の室外側の縁から開口の中央側に突出された延出部 18e とを有している。対向壁部 18a は、改装縦枠 10 の室外側の先端より室内側に配置されており、室外側壁部 13 の室外側の先端部分、突片 19、外方縁壁部 18d、延出部 18e とともに室外側に開放された凹部 10a を形成している。ここで、取付部 18 の見付け方向の幅は、ガラス保持部 51a の見付け方向の幅より大きく形成されている。

10

【0025】

また、取付部 18 の対向壁部 18a には、改装上枠（不図示）及び改装下枠（不図示）と接合するためのビスが螺合されるビス固定部 18b と、ビス固定部 18b から室外側に突出させた突起 18c とを有している。このため、凹部 10a は、ビス固定部 18b 及び突起 18c より外方側に位置する外方側凹部 10b と、ビス固定部 18b 及び突起 18c より開口の中央側に位置する中央側凹部 10c とに分かれている。

20

【0026】

また、凹部 10a の室外側に位置する突片 19 と延出部 18e とは、見込み方向において同じ位置に形成されており、突片 19 と延出部 18e とには、凹部 10a を覆うカバー部材 27 の係止片 27a が係止されてカバー部材 27 が取り付けられる。カバー部材 27 が取り付けられた状態では、室外側壁部 13 の外方側に突出された取付部 18 のほぼ全域がカバー部材 27 に覆われる。取付部 18 がカバー部材 27 にて覆われると、カバー部材 27 の室外側の面 27b と室外側壁部 13 の室外側の縁とが同一平面をなし、カバー部材 27 の室内側の面 27c に突起 18c が当接される。

【0027】

30

次に、ガラスを取り外した F I X 窓用の既設枠 50 への、改装枠 5 の取り付け方法について説明する。

【0028】

本実施形態の改装サッシ 1 を既設枠 50 に取り付けの際に、障子 30 を開いて開放される幅をより広く確保することを望む場合には、図 1、図 2 に示すように、既設枠 50 の突出部 51b の先端より室外側に改装縦枠 10 の取付部 18 を配置するとともに、改装縦枠 10 の外方縁壁部 18d が既設枠 50 の突出部 51b より外方側に位置するように配置する。このとき、改装枠 5 を室外側から既設枠 50 に取り付けの際に、改装縦枠 10 の取付部 18 の室内側の領域にて外方側に突出する部位、本実施形態の場合には、室内側壁部 12 と室外側壁部 13 との断熱部材 24 の保持部 11a から突出する部位 11b が、既設枠 50 のガラス保持部 51a と接触しない位置に改装枠 5 を配置する。

40

【0029】

その後、改装枠 5 の室内側壁部 12 を既設枠 50 のガラス保持部 51a の内側に挿入するように改装枠 5 を既設枠 50 に近づける。このとき、ガラス保持部 51a と取付部 18 の対向壁部 18a との間に当接部材としての下地材 28 を配置する。そして、改装縦枠 10 の対向壁部 18a が既設枠 50 の突出部 51b に当接されると、下地材 28 に対向壁部 18a とガラス保持部 51a とが当接される。

【0030】

対向壁部 18a とガラス保持部 51a とが下地材 28 に当接した状態で、改装縦枠 10 をガラス保持部 51a に室外側からビス 29 にて固定する。このとき、改装縦枠 10 の取

50

付部 18 の突起 18 c と既設枠 50 の既設壁部 51 c とが、見込み方向にほぼ直線上に配置されているので、取付部 18 は対向壁部 18 a において突起 18 c より開口の中央側がガラス保持部 51 a と対向する位置にある。このため、ビス 29 を中央側凹部 10 c に進入させて対向壁部 18 a 及び下地材 28 を貫通させて、ガラス保持部 51 a に螺合させることにより改装枠 5 を既設枠 50 に取り付ける。

【0031】

既設枠 50 に取り付けられた改装縦枠 10 には、室外側からカバー部材 27 を嵌め付けることにより凹部 10 a を覆いビス 29 が露出しないようにする。

【0032】

また、室内側は既設枠 50 が取り付けられている既設額縁 7 の、内周側に設けられた改装額縁 8 に当接されている額縁固定部 14 を開口の中央側から貫通するビス 26 にて改装額縁 8 に固定する。このように改装枠 5 を既設枠 50 に取り付けた場合には、改装縦枠 10 の外方縁壁部 18 d が既設枠 50 の突出部 51 b より外方側に配置されているので、外壁 2 と取付部 18 との間に空隙が形成される。この空隙にはバックアップ材 33 を備えるとともにシーリング剤 34 を充填する。

【0033】

最後に、既設枠 50 に取り付けられた改装枠 5 に、障子 30 を取り付けて改装サッシ 1 の取り付けが完了する。

【0034】

このように取り付けた改装縦枠 10 の取付部 18 の縁となる外方縁壁部 18 d が突出部 51 b より外方側に配置されて取り付けられる場合は、取付部 18 が突出部 51 b より屋外側に位置するので、屋外側から見た際には突出部 51 b を取付部 18 にて覆って既設枠 50 の露出を小さく抑えることが可能である。特に、上記のように、取付部 18 の見付け方向の幅がガラス保持部 51 a の見付け方向の幅より大きく形成されており、取付部 18 の外方縁壁部 18 d を外壁 2 と対向する位置まで突出させた場合には、既設枠 50 が露出されないで、サッシを交換したような見映えの良い外観を確保することが可能である。

【0035】

また、取付部 18 の外方縁壁部 18 d が突出部 51 b より外方側に配置される場合には、改装枠 5 が、より開口の外方側に配置されるので、改装枠 5 にて形成される新たな開口の見付け方向の幅をより大きく確保することが可能である。

【0036】

このとき、取付部 18 が突出部 51 b より屋外側に位置しているので、取付部 18 とガラス保持部 51 a とが見込み方向に間隔を隔てて配置されており、取付部 18 とガラス保持部 51 a との間には、取付部 18 とガラス保持部 51 a とに当接される下地材 28 が介在されるので安定した状態にて改装枠 5 を既設枠 50 に取り付けることが可能である。

【0037】

また、本実施形態の改装サッシ 1 は、図 3 に示すように、室外側に突出する量を小さく抑えるように取り付けることも可能である。

【0038】

この場合には、図 3 に示すように、改装縦枠 10 の外方縁壁部 18 d が既設枠 50 の突出部 51 b より開口の中央側に位置するように配置する。このとき、改装枠 5 を室外側から既設枠 50 に取り付けた際に、改装縦枠 10 の外方縁壁部 18 d が、既設枠 50 の突出部 51 b と近接する位置に改装枠 5 を配置する。

【0039】

その後、改装枠 5 の室内側壁部 12 を既設枠 50 のガラス保持部 51 a の内側に挿入するように改装枠 5 を既設枠 50 に近づけ、改装縦枠 10 の対向壁部 18 a を既設枠 50 のガラス保持部 51 a に当接させる。

【0040】

対向壁部 18 a とガラス保持部 51 a とが当接した状態で、改装縦枠 10 をガラス保持部 51 a に室外側からビス 31 にて固定する。このとき、改装縦枠 10 の取付部 18 は外

10

20

30

40

50

方側の部位がガラス保持部 5 1 a と対向しているので、ビス 3 1 を外方側凹部 1 0 b に進入させて対向壁部 1 8 a を貫通させて、ガラス保持部 5 1 a に螺合させることにより改装枠 5 を既設枠 5 0 に取り付ける。その後、室外側からカバー部材 2 7 を嵌め付けることにより凹部 1 0 a を覆いビス 3 1 が露出しないようにし、障子 3 0 を取り付けて改装サッシ 1 の取り付けが完了する。

【 0 0 4 1 】

このように改装枠 5 の取付部 1 8 の外方縁壁部 1 8 d が、突出部 5 1 b より開口の中央側に配置されるように取り付けられた場合には、ガラス保持部 5 1 a に直接に固定されるので、改装枠 5 の室外側への突出量を小さく抑えることが可能である。

【 0 0 4 2 】

また、改装縦枠 1 0 の外方縁壁部 1 8 d が既設枠 5 0 の突出部 5 1 b より開口の中央側に配置されているので、取付部 1 8 は外壁 2 側に突出せず、外壁 2 との間に空隙は形成されない。このため、バックアップ材 3 3 を備えたり、シール剤 3 4 を充填する必要はないので、短時間に容易に施工することが可能である。

【 0 0 4 3 】

本実施形態の改装サッシ 1 によれば、上述したように開口を大きく確保したい現場や室外側への突出量を抑えたい現場などいずれの現場にも用いることが可能な汎用性の高い改装サッシ 1 を提供することが可能である。

【 0 0 4 4 】

また、改装枠 5 は、既設サッシである F I X 窓用のサッシの高い強度を有するガラス保持部 5 1 a に取り付けられるので、ガラス保持部 5 1 a に改装サッシ 1 を強固に取り付けることが可能である。

【 0 0 4 5 】

上記実施形態においては、既設サッシとして F I X 窓用のサッシを用いた例について説明したが、これに限らず、既設サッシとしては、短冊状に形成された複数のガラスがルーバーをなすガラスルーバー窓用のサッシであっても良い。

【 0 0 4 6 】

図 4 は、改装サッシをガラスルーバー窓の既設枠に取り付けた状態を示す水平断面図である。以下の説明において、上記実施形態と同様の部位及び部材については同符号を付して説明を省略する。

【 0 0 4 7 】

ガラスルーバー窓用の既設枠 6 0 は、ガラスルーバー窓を閉めた状態にて、ルーバー（不図示）をなすガラス（不図示）と対向するガラス係合部としてのガラス対向部 6 1 を有している。

【 0 0 4 8 】

ガラス対向部 6 1 は、既設枠 6 0 の室外側の端部 6 0 a より室内側に位置し、開口の中央側に突出させて設けられている。この場合には、既設枠 6 0 のガラス対向部 6 1 より室外側の部位が突出部 5 1 b に相当する。

【 0 0 4 9 】

ガラスルーバー窓用の既設枠 6 0 に改装サッシ 1 の改装枠 5 を、開口をより大きく確保するように取り付けられる場合には、図 4 に示すように、既設枠 6 0 の突出部 5 1 b の先端より室外側に改装縦枠 1 0 の取付部 1 8 を配置するとともに、改装縦枠 1 0 の外方縁壁部 1 8 d が既設枠 6 0 の突出部 5 1 b より外方側に位置するように配置する。

【 0 0 5 0 】

そして、改装枠 5 の室内側壁部 1 2 を既設枠 6 0 のガラス対向部 6 1 の内側に挿入するように改装枠 5 を既設枠 5 0 に近づけ、ガラス対向部 6 1 と取付部 1 8 の対向壁部 1 8 a との間に下地材 2 8 を配置し、ビス 2 9 を中央側凹部 1 0 c に進入させてガラス対向部 6 1 に螺合させることにより改装枠 5 を既設枠 6 0 に取り付ける。

【 0 0 5 1 】

また、改装枠 5 の室外側に突出する量を小さく抑えるように取り付けられる場合には

10

20

30

40

50

図示していないが、改装縦枠 10 の外方縁壁部 18 d が既設枠 60 の突出部 51 b より開口の中央側に位置するように配置し、改装縦枠 10 の対向壁部 18 a を既設枠 60 のガラス保持部 51 a に当接させて、ビス 29 を外方側凹部 10 b に進入させて対向壁部 18 a を貫通させて、ガラス保持部 51 a に螺合させることにより改装枠 5 を既設枠 60 に取り付け。

【 0 0 5 2 】

このように改装サッシ 1 は、ガラスルーバー窓用のサッシにも取り付けることが可能である。

【 0 0 5 3 】

また、上記実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれることはいうまでもない。

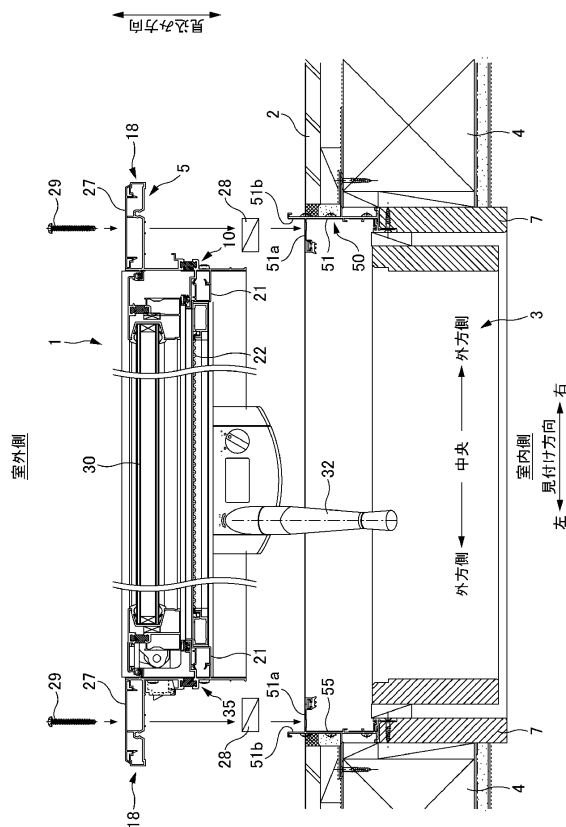
10

【 符号の説明 】

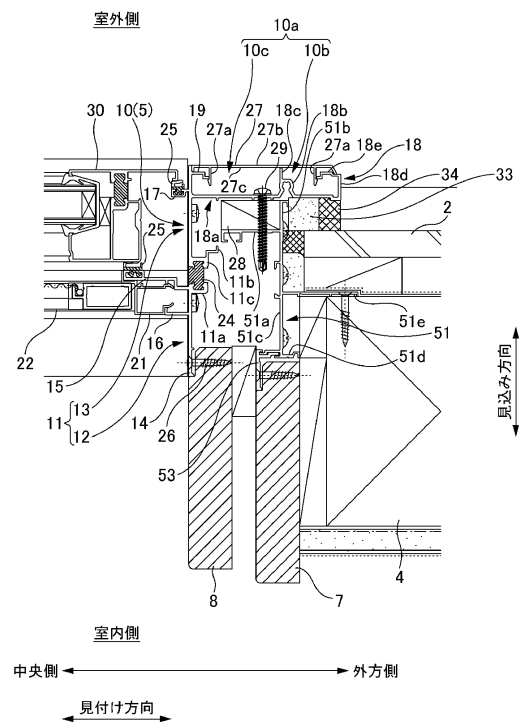
【 0 0 5 4 】

- 1 改装サッシ、3 開口、5 改装枠、10 右側の改装縦枠、
18 取付部、35 左側の改装縦枠、50 既設枠、
51 右側の既設縦枠、51 a ガラス保持部、51 b 突出部、
55 左側の既設縦枠、60 既設枠、61 ガラス対向部

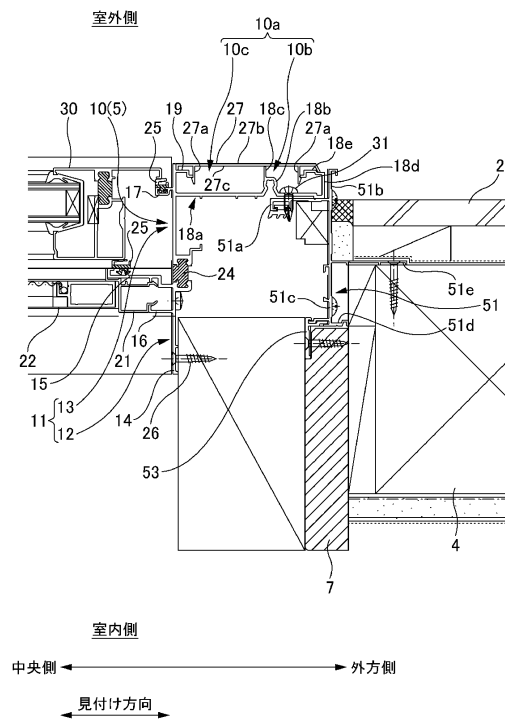
【 図 1 】



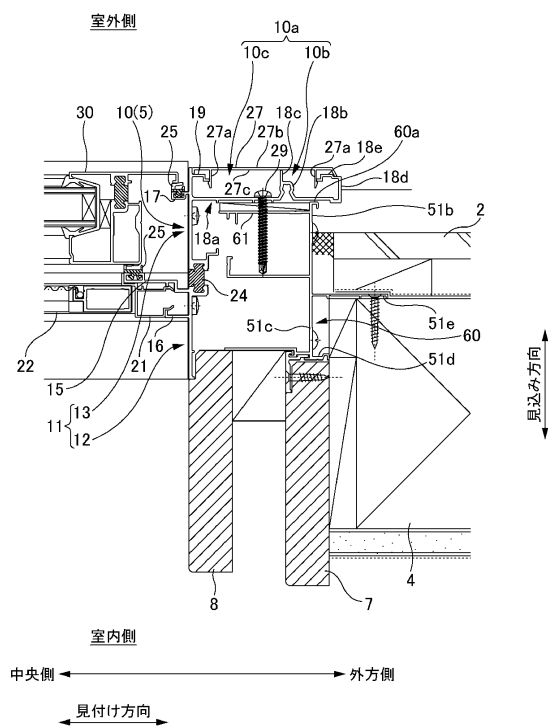
【 図 2 】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2009-287311(JP,A)
特開2007-138560(JP,A)
特開2003-328648(JP,A)
特開平07-217319(JP,A)
特開平07-139263(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E06B 1/56